

Appian DocCenterを使用した大規模な文書処理

演習ガイド

はじめに	2
ユースケース：Prospera Bank	2
サインイン	2
演習リファレンス：住宅ローン書類パッケージ	3
演習1：分類モデルの作成	4
分類モデルの作成	4
分類の実行	6
分類インスタンスの照合	7
演習2：抽出モデルの作成	8
抽出モデルの作成	8
抽出の実行	11
抽出インスタンスの照合	11
テストケースの実行	12
ストレートスルー処理	13
テストケース抽出のレビュー	13
演習3：分類モデルと抽出モデルをプロセスに追加する	15
分類モデルのキーを見つける	15
プロセスモデルに分類サブプロセスを追加する	15
分類データのマッピングと書き込み	17
抽出用ドキュメントと抽出モデルキーの取得	18
プロセスモデルに抽出サブプロセスを追加する	21
抽出データのマッピングと書き込み	25
演習4：作業のテスト	26

権利に関する通知

本書はAppian Corporation（7950 Jones Branch Dr, Tysons, Virginia 22102）によって作成されました。Copyright 2026 by Appian Corporation. All rights reserved. 本書の内容は予告なく変更されることがあります。Appian Corporationの事前の書面による許可なく、本書のいかなる部分も、いかなる形式または手段によっても複製または送信することはできません。転載または抜粋の許可の取得に関する詳細については、[academyonline@appian.com宛にAppian Training](mailto:academyonline@appian.com)にお問い合わせください。

はじめに

Appian DocCenterは、多様な形式やレイアウトを持つ非常に複雑な文書からデータを自動的に分類・抽出できる、エンタープライズグレードのインテリジェントドキュメント処理（IDP）を提供するアプリケーションです。DocCenterは、安全な境界と人間による監督を維持しながら、高いデータ精度を保証します。

DocCenterを使用すると、大量のドキュメントを扱う煩雑な業務を、自動化されたプロセスに変換できます。組み込みのモニタリング、メトリクス、バージョン管理により、精度を追跡し、モデルを反復的に改善し、改良したバージョンを安全にデプロイできます。制御された、測定可能なAIによる強化でプロセスをモダナイズします。また、DocCenterは検証（verification）もサポートしており、AIエージェントを使用して、ユーザーが定義したビジネスルールに照らしてドキュメントを評価します。詳細については、Appianドキュメントをご覧ください。

ユースケース：Prospera Bank

Prospera Bankは銀行サービス業界における国内有数のリーダーです。住宅ローン事業を拡大するため、Prosperaは小規模金融機関から住宅ローンを購入し始めました。Prosperaは各ローンについて、住宅所有者の運転免許証、銀行明細書、源泉徴収票（W-2）などの書類パッケージを受け取ります。Prosperaは、Appianを使用して各パッケージ内の書類の分類とデータ抽出を自動化し、抽出したデータを下流プロセスで利用できるようにしたいと考えています。

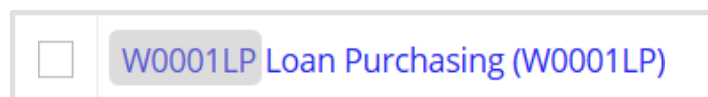
サインイン

1. ワークショップ環境に移動してください。
2. Appian Community の資格情報でサインインしてください。
3. 指示に従って、ワークスペースを取得してください。

Appian Designerには、以下を含むいくつかの事前構築済みアプリケーションが表示されます：

- **W#LP Loan Purchasing**：これらの演習を完了するための、自分専用の編集可能なアプリです。

重要：ワークスペースを取得すると、プリビルトアプリのアプリプレフィックスに含まれるワークスペース識別子が割り当てられます。名前の競合を避けるため、この識別子をアプリプレフィックスに保持してください。例：



購入した各ローンについて、Prosperaはこれらのサンプル文書を含む1つのPDFを受領します。

Closing Disclosure		This form is a statement of final loan terms and closing costs. Compare this document with your loan Estimate.		
Closing Information Date Issued: 4/15/2013 Closing Date: 4/15/2013 Document Number: 431000113 Settlement Agent: Equifax Title Co., 12146B Property: 434 Savannah Ave, Andrews, TX 73203 Sale Price: \$186,000		Transaction Information Borrower: Michael Jones and Mary Stone 122 Andrews Street Andrews, TX 73203 Seller: Stone Carol And Amy Day 221 Savannah Drive Andrews, TX 73245 First Party:		Loan Information Loan Term: 30 years Purpose: Purchase Product: Fixed Rate Loan Type: 30 Year Conventional 270K CTR: 4 DTI: 43 MCA: 0.00043421
Loan Terms		Can this amount increase after closing?		
Loan Amount	\$162,000	NO		
Interest Rate	3.875%	NO		
Monthly Principal & Interest See Payment/ Payments below for your Estimated Total Monthly Payment	\$761.78	NO		
Prepayment Penalty		YES - As high as \$3,240 if you pay off the loan during the first 2 years		
Ballon Payment	NO	NO		
Projected Payments				
	Years 1-7	Years 8-30		
Principal & Interest	\$761.78	\$761.78		
Mortgage Insurance	+ 82.35	+		
Estimated Escrow Amount can increase over time	+ 206.13	+ 206.13		
Estimated Total Monthly Payment	\$1,050.26	\$967.91		
Estimated Taxes, Insurance & Assessments	\$356.13 a month	This estimate includes ☐ Property Taxes ☐ Homeowner's Insurance ☐ Other Homeowner's Assessments NO See Form 458 on page 4 for details. You must pay for other property costs separately.		
Amount can increase over time See page 4 for details		Is escrow? YES YES NO		
Cash at Closing				
Closing Costs	\$9,712.10	Includes \$4,048.00 in Loan Costs & \$5,664.00 in Other Costs - 50 in Lender Credits. See page 2 for details.		
Cash to Close	\$14,147.26	Includes Closing Costs. See Calculating Cash to Close on page 3 for details.		

[illegible]

住宅ローンのクロージングディスクロージャー（Closing disclosure）フォーム

A.G. Property Management
64 Tompkins Plaza
Brooklyn, NY 11231

5 March 2024

Mortgage 1-A America
8264 Angles Avenue
New York, NY 10020-1513

To whom it may concern,

This letter verifies that Andrew Sample and Elizabeth Alders are current tenants of 60 Tompkins Plaza, Apt 2396 in Brooklyn, NY. Together they have paid \$2,900-\$3,400 per month for a two-bedroom unit in the basement of the building (the rent increased annually). Ryan has been a tenant since May 1, 2020 and Elizabeth has been a tenant since October 1, 2021. Before Elizabeth became a co-tenant, Andrew paid the rent alone. Regardless of whether Andrew paid alone or Andrew and Elizabeth paid the rent together, the rent has been paid in full and on time every month.

Best,



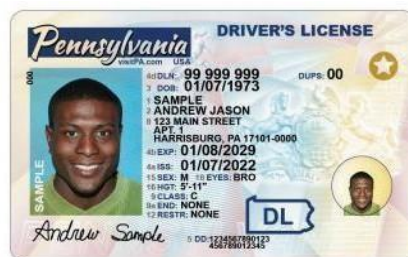
Alex Grey

給与所得の源泉徴収票 (W-2)

Bank of America 		
ARBE, NEWTON Account # 333 6444 5555 May 1, 2019 to May 31, 2019		
Deposits and other additions		
Date	Description	Amount
01/05/19	Deposit	50.00
11/05/19	Counter credit	50.00
19/05/19	SEVEN ELEVEN SALARY MAY	50.00
29/05/2019	Deposit	50.00
Total deposits and other additions		\$200.00
Withdrawals and other subtractions		
Date	Description	Amount
01/05/19	ATM Withdrawal	-25.00
06/05/19	debit card payment 4747 STARBUCKS PLAZA BOTERO BT 1344567654532109875322	-10.49
11/05/19	ATM Withdrawal	-25.00
17/05/19	Checkcard 2201 TOYSRUS 333-267-6947 BA 123456789012345	-89.51
22/05/19	Checkcard 2202 MACDONALDS 678-344-6314 BO 1338635776666635790652	-32.81
30/05/19	Payment Debit Card 4747 UNIVERSITY OF BOGOTA BO 1234567654532109875322	-17.19
Total withdrawals and other subtractions		-\$200.00

家賃支払証明書、手紙 (Landlord letter)

銀行明細書



運転免許証

演習1：分類モデルの作成



シナリオ

Prospera Bankはローンの書類を単一のPDFパケットとして受け取ります。このパケットを複数の書類に分割する必要があります。各書類は分類され、後続処理のために個別のファイルとして保存されます。

分類モデルを作成する

文書分類モデルを作成し、構成します。



ヒント

この構築中にDocCenterでコピーした値を保存するために、メモ帳やワードパッドなどのメモアプリケーションを開いてください。これらの値は後続の演習で必要になります。

1. Appian Designerの Applications ビューで、自分の4桁のW#ワークスペース番号を確認します。
2. ナビゲーションメニュー  > DocCenter をクリックします。
3. [+ 分離モデル] をクリックします。
4. 分類モデルを作成のダイアログのステップ1－モデルの詳細で、名前に次のとおり入力
`W# Home Loan Document Packet`.
 - 「#」を4桁のワークスペース番号に置き換えてください。
5. Description：次のとおり入力します。
`Classifies and splits the document packet into separate documents.`
6. AI使用率をオンにします。
 - AI使用状況の詳細は、インスタンスを表示する際に AI Usageタブに表示されます。AIアクションの消費量は、DocCenterのHomeページ、および環境のシステムログ内のAI使用状況ログで、すべてのモデルを横断して監視できます。
7. AI推奨改善点をオンにします。
 - モデルの精度を改善する方法について、AIが生成した提案を受け取れます。このオプションを有効にすると、AIアクションの消費量が増加する点に注意してください。



ヒント

分類モデルのキーを今すぐコピーしてください。後で、このキーを使用してこの分類モデルを参照します。キーには後ほどアクセスすることもできます。

8. [次へ] をクリックします。
9. ステップ2 – カテゴリの設定で、パケットを個々の文書に分割を選択します。



注記

パケットを個々の文書に分割を選択すると、デフォルトで「その他」カテゴリが作成されます。このカテゴリは、パケット内のページのうち、他の定義済みカテゴリに一致しないページに使用されます。

次に、モデルがコンテンツを分類する際に使用するカテゴリについて説明します。

	Category	Description	
1	ID	Driver's license or passport	×
2	Landlord letter	Letter from landlord describing rent payment history	×
3	W2	Usually 1 page long	×
4	Closing disclosure	Usually 5-6 pages long	×
5	Bank statement	Usually 2-3 pages long	×
6	Other		
+ Add Category			

1. Category と Description に以下の値を入力します。行を追加するには [+ Add Category] をクリックします。

Category	Description
ID	Driver's license or passport
Landlord letter	Letter from landlord describing rent payment history
W2	Usually 1 page long
Closing disclosure	Usually 5-6 pages long

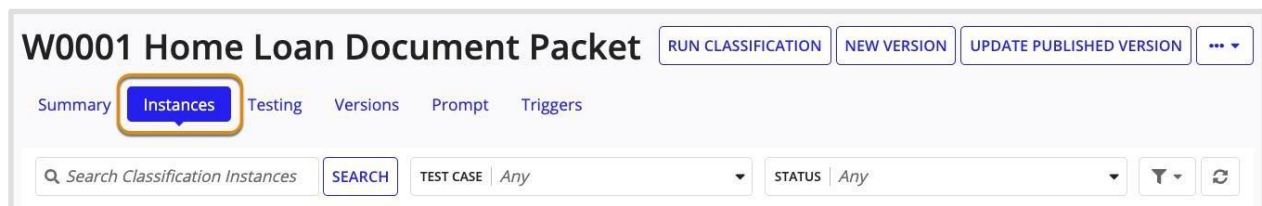
Bank statement	Usually 2-3 pages long
----------------	------------------------

2. カテゴリとして、正確に **Landlord letter** と入力したことを確認します。
 - 後で、家賃支払証明書（Landlord letter）として分類されたドキュメントに抽出モデルを関連付ける際に、この大文字と小文字を区別する値を参照します。
3. [次へ] をクリックします。
4. ステップ3 – プロンプトを絞り込むでは、すべてデフォルトの選択のままにし、[作成] をクリックします。
5. 左側のナビゲーションペインで「分離」を展開し、「モデル」を選択します。
6. 作成した W# Home Loan Document Packet 分類モデルを見つけます。

分類の実行

サンプルドキュメントパケットを使用して分類を実行します。これにより、ドキュメントパケットが分類モデルに送信され、照合できる応答が返されます。

1. モデルのリストから、作成した分類モデル W# Home Loan Document Packet を選択します。
2. [分離を実行] をクリックし、以下を設定します。
 - **文書タイプ**：既存の文書が選択された状態のままにします。
 - **文書を選択**：Home Loan Packet For Testing.pdf を検索して選択します。
 - **テストケースとして設定をオン**にします。
3. [分離します] をクリックします。



最新のインスタンスの横に、ステータス **Initiated**（開始済み）が表示されます。分類インスタンスが完了すると、ステータスは **Classified**（分類済み）に変わります。



注記

文書のサイズと複雑さによっては、分類に数分かかる場合があります。ステータスの更新を確認するには、Instances ビューを更新してください。

分類インスタンスの照合

分類インスタンスの応答を照合し、ドキュメントパケットが個別のドキュメントに正しく分割されたことを検証します。結果は、このモデルバージョンのベースライン精度を提供する分類インスタンスです。

1. 分類が完了したら、インスタンス名 Home Loan Packet For Testing をクリックします。
2. 右上の [インスタンスの調整] をクリックします。
3. インスタンスを調整ダイアログでは、各カテゴリが折りたたみ可能なセクションとして表示され、分類の詳細を確認または編集できます。各カテゴリのセクションを展開してスタートページと終了ページを確認し、必要に応じて修正します。
 - W2、スタートページ: 1、終了ページ: 1
 - Bank statement（銀行明細書）、スタートページ: 2、終了ページ: 3
 - ID、スタートページ: 4、終了ページ: 4
 - Landlord letter（家賃支払証明書）、スタートページ: 5、終了ページ: 5
 - Closing disclosure（クロージングディスクロージャー）、スタートページ: 6、終了ページ: 10
4. [送信します] をクリックします。
5. 分類モデルの上部で、AI使用率ビューに移動し、AIアクションの使用状況を確認します。
6. サマリービューに戻ります。
7. インスタンスの詳細の下で、W# Home Loan Document Packet - Version 1 をクリックしてモデルに戻ります。

#0001 - Home Loan Packet For Testing

RECONCILE INSTANCE
REMOVE AS TEST CASE
DELETE INSTANCE

Summary
Prompt
AI Usage

Instance Details
Test Case

Reconciled Manually
Multiple Values

W0001 Home Loan Document Packet - Version 1
Last updated Jul 28, 2026 by Min Roh

W2

W2 Classification Reasoning
This document is a 2025 W-2 Wage and Tax Statement from the University of Pittsburgh for employee Andrew Sample. It contains standard W-2 form fields including wages, tax withholdings, social security... [see more](#)

Document
Errors (0)

分類モデルのモデル精度に注目してください。このバージョンのモデルを更新することも、新しいバージョンを作成することも、テストケースの実行や新規テストケースの作成を続けることもできます。また、モデルの精度を改善するための提案が表示される場合もあります。

W0001 Home Loan Document Packet - Version 1

RUN CLASSIFICATION
RUN ALL TESTS
UPDATE VERSION

Summary
Instances
Testing
Prompt
Triggers

Version is published for **W0001 Home Loan Document Packet** and will be used when the process runs

Version Details

Model Accuracy
100%

Text-based Classification
Packet Splitting

Review 6 suggestions to improve model accuracy. View suggestions on the Testing tab or when you update the model.

Classification Categories

Category	Description	Accuracy
ID	Driver's license or passport	100%

- 分類モデルの上部で、テストビューに移動します。改善点タブで、AIが提案する改善案を確認します。

提案される改善案には、あいまいさを減らすためにカテゴリの説明を充実させることや、モデルが視覚的要素をより適切に検出できるようにビジョン分類を有効にすることなどが含まれます。時間の都合上、このワークショップではモデル精度を改善する提案は実装しません。

- 改善点タブの右上で、[完了としてマーク] をクリックします。

演習2：抽出モデルの作成

シナリオ

Prosperaの目標は、大家からの手紙から非構造化データを抽出することです。これらの文書は通常、段落形式を使用し、内容とスタイルは執筆者個人によって異なります。

抽出モデルを作成する

家賃支払証明書（Landlord letter）として分類されたドキュメント用の抽出モデルを作成し、設定します。

1. DocCenterの左側のナビゲーションペインで、Home に移動します。
 - Homeページで確認できるAIアクションのデータに注目してください。
2. [+ 抽出モデル] をクリックします。

- 抽出モデルを作成ダイアログのステップ1 – モデル詳細で、以下を設定します。

- 名前 : **W#Landlord Letter** と入力します。
 - 「#」をお使いの4桁のワークスペース番号に置き換えてください。
- 説明 : 次のとおり入力します。

`Extracts data from the landlord letter.`

- バウンディングボックスは選択された状態のままにします。
- AIの使用状況を記録をオンにします。



ヒント

今すぐ抽出モデルのキーをコピーしてください。後で、このキーを使用して抽出モデルを参照します。キーには後からもアクセスできます。

- [次へ] をクリックします。
- ステップ2 – セクションを設定では、すべてデフォルト値のままにして[次へ] をクリックします。
- ステップ3 – フィールドを作成では、すべてデフォルト値のままにして [次へ] をクリックします。



注記

ネットワークセキュリティ上の制限によりドキュメントのアップロードができない可能性があるため、このワークショップでは「文書から抜粋」メソッドは使用しません。

抽出するフィールドと値を定義し、必要に応じて追加のプロンプト設定を行います。以降の手順では、必ず各行のラベルに正確な値を入力してください。

Field Definition			Extraction Details			Reconciliation	
Label ?	Key ?	Data Type ?	List ?	Method	Instructions ?	Visual ?	
Letter date	letterDate	Date	☐	Generative AI	Enter prompt	☐	
Tenant one	tenantOne	Text	☐	Generative AI	Enter prompt	☐	
Tenant two	tenantTwo	Text	☐	Generative AI	Enter prompt	☐	
Lease start date	leaseStartDate	Date	☐	Generative AI	Enter prompt	☐	
Lease end date	leaseEndDate	Date	☐	Generative AI	Enter prompt	☐	
Rent minimum	rentMinimum	Decimal	☐	Generative AI	Enter prompt	☐	
Rent maximum	rentMaximum	Decimal	☐	Generative AI	Enter prompt	☐	
Rent paid on time	rentPaidOnTime	Boolean	☐	Generative AI	Was the rent paid in full and on time?	☐	

- 以下の値と説明を入力します。行を追加するには [+ 行の追加] をクリックします。
 - すべての行で、キー は生成された値のまま、方法 はデフォルトのままにします。

Label	Data Type	Instructions
Letter date	Date	
Tenant one	Text	
Tenant two	Text	
Lease start date	Date	
Lease end date	Date	
Rent minimum	Decimal	
Rent maximum	Decimal	
Rent paid on time	Boolean	Was the rent paid in full and on time?

- [次へ] をクリックします。

ステップ5 – プロンプトを絞り込むでは、モデルに担わせたいロールを自然言語で定義できます。また、モデルに何を実行させたいか、応答に何を期待するかについて、追加の指示を与えることもできます。このワークショップでは、すべてデフォルト値のままにします。

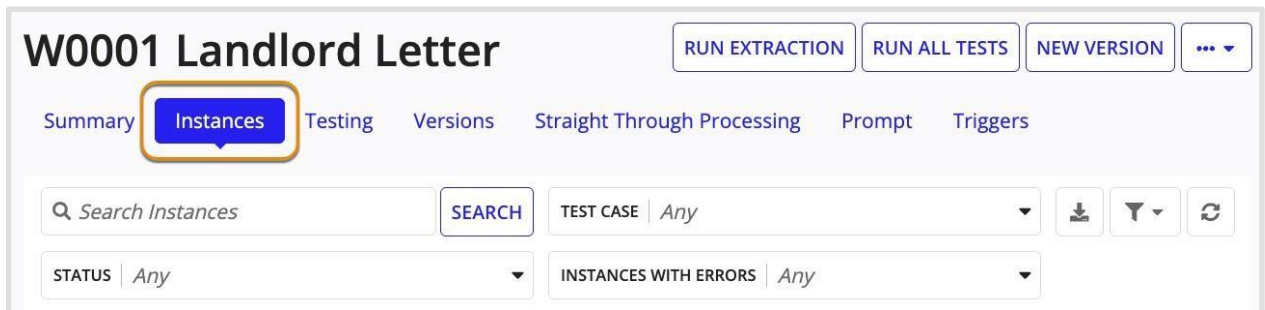
- ステップ5 – プロンプトを絞り込むでデフォルト設定を確認し、[作成] をクリックします。
- 左側のナビゲーションペインで抽出を展開し、モデルを選択します。

3. 作成した W# Landlord Letter 抽出モデルを見つけます。

抽出の実行

サンプルドキュメントに対して抽出を実行します。これにより、ドキュメントが抽出モデルに送信され、確認して照合できる応答が返されます。

1. モデルのリストから、作成した抽出モデル W# Landlord Letter を選択します。
2. 右上の [抽出を実行] をクリックし、以下を設定します。
 - **文書タイプ**：既存の文書が選択された状態のままにします。
 - **文書を選択**：Landlord Letter For Testing.pdfを検索して選択します。
 - **テストケースとして設定をオン**にします。
 - 後でこのドキュメントを使ってすばやく再テストできるよう、必ずテストケースとして設定をオンにしてください。
3. [エクス] をクリックします。
4. インスタンスビューに移動します。



最新のインスタンスの横に、ステータス開始済みが表示されます。抽出が完了すると、ステータスは抽出済みになります。



注記

ドキュメントのサイズと複雑さによっては、抽出に数分かかる場合があります。ステータスの更新を確認するには、インスタンスビューを更新してください。

抽出インスタンスの照合

抽出応答を確認し、フィールドを照合します。正しく抽出されたフィールドを検証し、抽出されなかったフィールドの値を更新します。その結果、このモデルバージョンのベースライン精度を提供する抽出インスタンスが得られます。

1. 抽出モデルのインスタンスビューを開いているはずです。
 - 最新のインスタンスの横に、ステータス抽出済みが表示されます。
2. 抽出が完了したら、インスタンス名 Landlord Letter For Testing をクリックします。
3. 右上の [フィールドを調整] (フィールドの照合) をクリックします。



注記

生成AIは非決定的です。抽出結果がこの演習で説明されている結果と若干異なる場合があります。

フィールドの横にある  場所アイコンをクリックすると、モデルが情報をどこから抽出したかを確認できます。

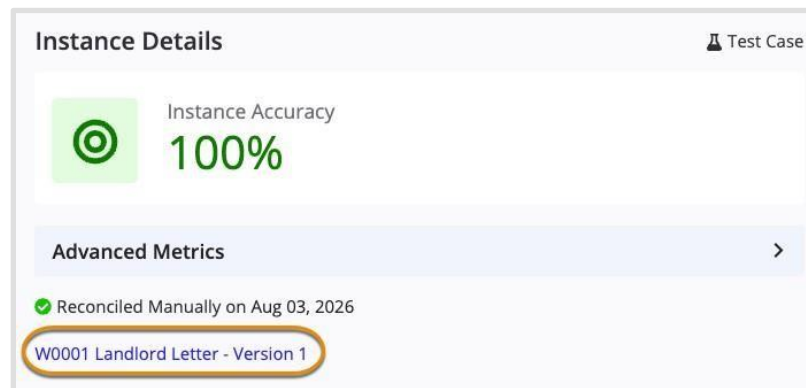
フィールドの抽出値を修正するには、 フィールドの横にある蛍光ペンアイコンを選択し、ドキュメント上で直接クリック&ドラッグして正しい値を抽出します。

4. [送信します] をクリックします。
5. サマリービューのインスタンス詳細の下にあるインスタンス精度のパーセンテージに注目してください。
 - すぐにパーセンテージが表示されない場合は、ページを更新してください。

テストケースを実行する

テストケースを使用して新しい抽出を実行します。照合済みのテストケースに対して抽出を実行すると、再度照合することなく精度を確認できます。

1. インスタンス詳細の下で、W# Landlord Letter - Version 1 をクリックしてモデルに戻ります。



2. 右上の [すべてのテストを実行] をクリックします。

3.すべてのテストを実行ダイアログで [実行] をクリックします。

ストレートスルー処理 (Straight Through Processing)

ストレートスルー処理タブでは、自動化されたバリデーションとチェックを設定できます。これらの自動チェックにより、どのドキュメントがシステムを自動的に通過でき、どのドキュメントに人間によるレビューが必要かが決まります。

1. ストレートスルー処理タブに移動し、設定を確認します。

- **Confidence Threshold** (信頼度しきい値) は、抽出データに最低限の確信度スコアを設定することで、品質ゲートとして機能します。この基準を下回るフィールドは、自動的に人間によるレビューの対象としてフラグ付けされます。
- **Sampling Rate** (サンプリングレート) は、成功した抽出の一定割合を品質検証にルーティングすることで監督を維持し、モデルが長期にわたって正確であり続けることを保証します。
- **AI Review** (AIレビュー) は、別のLLMを使用して抽出値をクロスチェックする二次検証を提供し、標準の信頼度スコアでは見逃されかねない微妙な不一致を検出します。



注記

時間の都合上、このワークショップではこれらの機能を設定しません。

テストケース抽出のレビュー

1. 抽出モデルの上部で、インスタンスビューに移動します。

抽出が完了すると、ステータス 自動的に調整済み (自動照合済み) または要レビューが表示されます。抽出結果がテストケースの照合値と一致する場合は、自動的に照合されます。この演習の手順どおりに進めていれば、自動的に照合されているはずです。

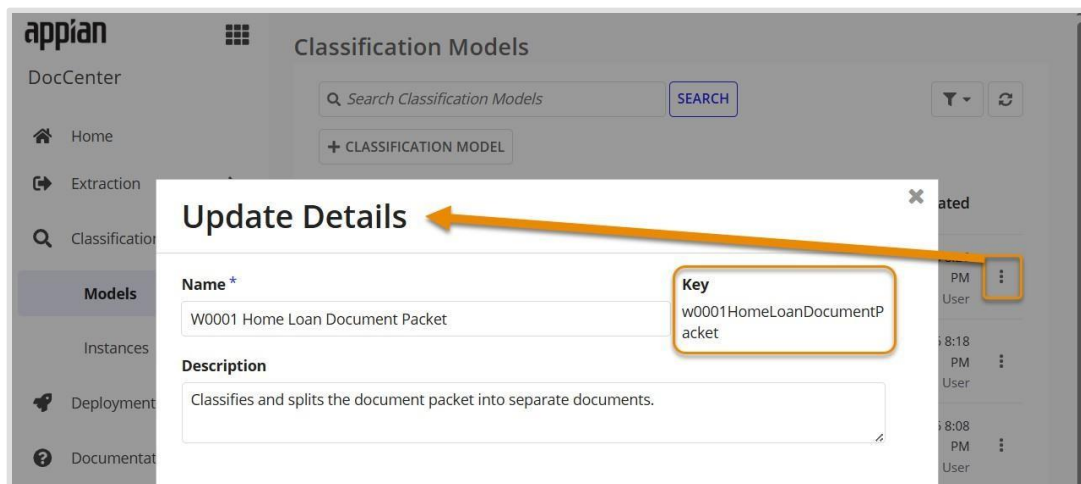
演習3：分類モデルと抽出モデルをプロセスに追加する

分類モデルと抽出モデルを作成したので、それらをプロセスモデルに組み込みます。

分類モデルのキーを見つける

分類モデルのキーを先ほどコピーしていない場合は、今コピーできます。プロセスから分類モデルを実行するには、このキーが必要です。

1. 左側のナビゲーションペインで 分離を展開し、モデルを選択します。次のモデルを検索します：
W# Home Loan Document Packet 分類モデル
2. 右側で、三点メニュー  > [詳細を更新] をクリックします。
3. 詳細を更新ダイアログで、キーをコピーします。



プロセスモデルに分類サブプロセスを追加する

次に、分類サブプロセスを追加し、分類モデルを実行するように構成します。

1. ナビゲーションメニュー  > Appian Designer をクリックします。
2. W#LP Loan Purchasing (W#LP) アプリケーションを選択します。
3. 構築ビュー  に移動し、W#LP Upload Home Loan Documents プロセスモデルを開きます。



注記

このプロセスモデルは、この演習をサポートするための例として作成されています。要件に応じて、プロセスフローは異なる場合があります。

このプロセスモデルには、開始フォーム、サポート用のスクリプトタスク、およびレコード書き込みノードが構成されています。プロセスは、ユーザーが開始フォームを送信すると開始され、pv!documentPacketを使用してドキュメントパッケージがプロセスモデルに渡されます。

1. 左側のパレットで次を検索します : AIA Classification Run Model Version
2. AIA Classification Run Model Version をキャンバスにドラッグ＆ドロップし、**Upload Document Packet ノードと Map Classification Data ノードの間に配置します。**



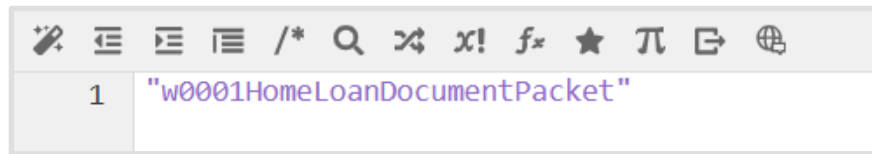
このサブプロセスは、お客様の分類モデルを使用してドキュメントパッケージを分割し、分類済みデータをプロセスに返します。次に、サブプロセスのセットアップを設定します。

1. Subprocess - AIA Classification Run ノードをダブルクリックして、プロパティを設定します。
2. セットアップタブに移動します。
3. 入力変数の下で、document (ドキュメント) 変数のドロップダウンをクリックし、documentPacket を選択します。
4. modelKey (テキスト) 変数については、 [式のエディタ] をクリックします。

Input Variables Specify the data to pass to the subprocess.	
ModelVersion (AIA Classification Model Version (Record Type)) =	--Choose a process variable or enter an expression--
document (Document) =	documentPacket ☐ Pass as reference
input (Text) =	--Choose a process variable or enter an expression--
isDocumentTestCase (Boolean) =	--Choose a process variable or enter an expression--
modelKey (Text) =	--Choose a process variable or enter an expression--
modelVersionId (Number (Integer)) =	--Choose a process variable or enter an expression--

5. 式エディターで、分類モデルのキーを引用符付きで入力します。

例：



The screenshot shows a formula editor interface. At the top is a toolbar with various icons. Below it, a text box contains the string "w0001HomeLoanDocumentPacket" in purple text. The text box is preceded by a small box containing the number "1".

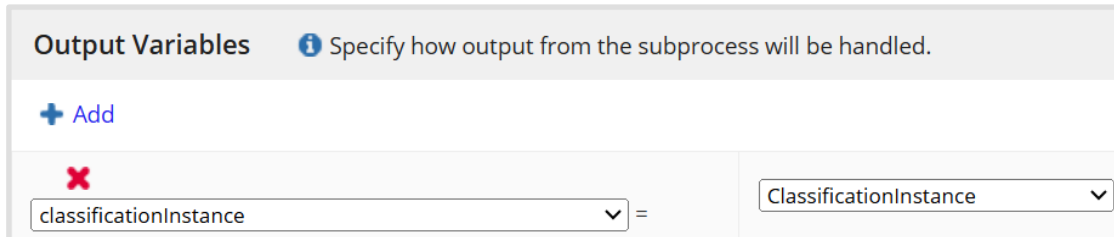
- 必ず分類モデルキーを正確に入力してください。この変数は大文字と小文字を区別します。
- キーは、DocCenterでモデルを開き、詳細を更新を選択すると確認できます。

6. [保存して閉じる] をクリックします。

次に、サブプロセスが分類インスタンスデータをプロセスに返すように、出力変数を設定します。

1. 出力変数の下で、追加をクリックし、以下を設定します。

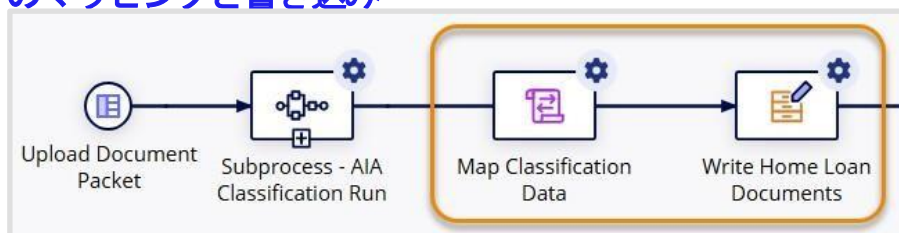
- 最初のドロップダウンで、classificationInstance を選択します。
- 2番目のドロップダウンで、ClassificationInstance を選択します。



The screenshot shows the 'Output Variables' configuration dialog. It has a title bar with the text 'Output Variables' and a subtitle 'Specify how output from the subprocess will be handled.' Below the title bar is a '+ Add' button. Underneath, there is a red 'X' icon. The main area contains two dropdown menus: the first is labeled 'classificationInstance' and the second is labeled 'ClassificationInstance'. They are separated by an equals sign (=).

2. Configure Subprocessダイアログで [OK] をクリックします。

分類データのマッピングと書き込み



プロセスモデル内の次の2つのノードは、既に設定済みです。Map Classification Data ノードは、分類インスタンスから返されたデータを W#LP Home Loan Documents レコードタイプの対応するフィールドにマッピングします。このノードの出力は `pv!classifiedDocumentData` に格納されます。

Write Home Loan Documents ノードは、`pv!classifiedDocumentData` を新しい W#LP Home Loan Document レコードタイプのレコードに書き込みます。分類された各ドキュメントに対して、新しいレコードが作成されます。

抽出用ドキュメントと抽出モデルキーの取得

ドキュメントパケットが5つの個別のドキュメントに分割され、各ドキュメントが新しい W#LP Home Loan Document レコードで表されるようになったので、抽出を設定します。

Get Docs & Extraction Models スクリプトタスクは、以下を実行します。

- 各ドキュメントカテゴリを対応する抽出モデルにマッピングし、抽出に使用される抽出モデルキーを決定します：
`pv!extractionModelKeys` .
- 抽出に送信されるドキュメントを決定します：
`pv!documentsForExtraction` .

このノードでは、家賃支払証明書 (Landlord letter) のドキュメントカテゴリを W#Landlord Letter 抽出モデルに関連付ける式を更新します。

1. Get Docs & Extraction Models ノードをダブルクリックして、プロパティを編集します。



2. データタブに移動します。
3. 入力タブのノード入力の下で、`extractionModelKeys` を選択します。
4. フィールドプロパティの下で、値の横にある[式エディター] をクリックします。

Field Properties	
Name	extractionModelKeys
Type	Text
Multiple	☒
Value	= a!forEach(items: pv!updated 
Required	☐
Save into	

5. 式エディターで、次をクリックします： **Format expression (式のフォーマット)**



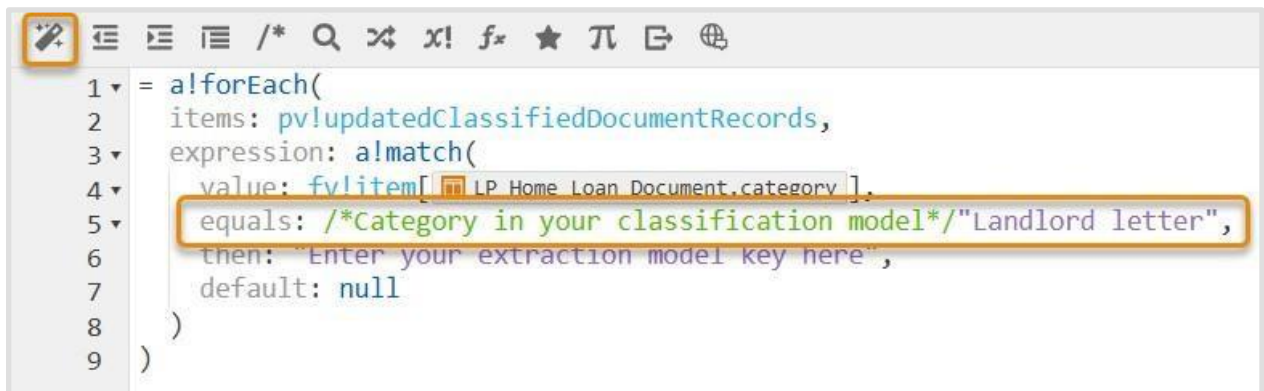
```
1 = a!forEach(  
2   items: pv!updatedClassifiedDocumentRecords,  
3   expression: a!match(  
4     value: fv!item[LP Home Loan Document.category],  
5     equals: /*Category in your classification model*/"Landlord letter",  
6     then: "Enter your extraction model key here",  
7     default: null  
8   )  
9 )
```



注記

文書抽出をスケーリングするには、a!forEach式を拡張して、各分類カテゴリと対応する抽出モデルキーを含めます。このワークショップでは、時間の都合上、1つの分類カテゴリを対応する抽出モデルキーに関連付けます。

Appianは、家賃支払証明書からデータを抽出するために、W# Landlord Letter 抽出モデルを使用する必要があります。equals パラメータでは、分類モデルのカテゴリと Landlord letter が一致していることに注目してください。



```
1 = a!forEach(  
2   items: pv!updatedClassifiedDocumentRecords,  
3   expression: a!match(  
4     value: fv!item[LP Home Loan Document.category],  
5     equals: /*Category in your classification model*/"Landlord letter",  
6     then: "Enter your extraction model key here",  
7     default: null  
8   )  
9 )
```

equals パラメータの値は、分類モデルの家賃支払証明書 (Landlord letter) カテゴリと正確に一致する必要があります。このパラメータは大文字と小文字を区別します。参考までに、W# Home Loan Document Packet 分類モデルには「Landlord letter」というカテゴリが含まれています。

W0001 Home Loan Document Packet

[RUN CLASSIFICATION](#)
[RUN ALL TESTS](#)
[NEW VERSION](#)

[Summary](#)
[Instances](#)
[Testing](#)
[Versions](#)
[Prompt](#)
[Triggers](#)

Model Details

Latest Version Accuracy
100%

Classifies and splits the document packet into separate documents.

[Text-based Classification](#)
[Packet Splitting](#)

Latest Version

Model Key

Version 1
w0001HomeLoanDocumentPacket

Last updated Jul 28, 2026 by Admin User

Classification Categories

Category	Description	Accuracy
ID	Driver's license or passport	100%
Landlord letter	Letter from landlord describing rent payment history	100%
W2	Usually 1 page long	100%
Closing disclosure	Usually 5-6 pages long	100%
Bank statement	Usually 2-3 pages long	100%
Other		-

次に、プロセスモデルで、W# Landlord Letter 抽出モデルのモデルキーを入力します。

1. 式エディターで、then パラメータの

"Enter your extraction model key here"

を、抽出モデルのキー（引用符で囲む）に置き換えます。 例：

```

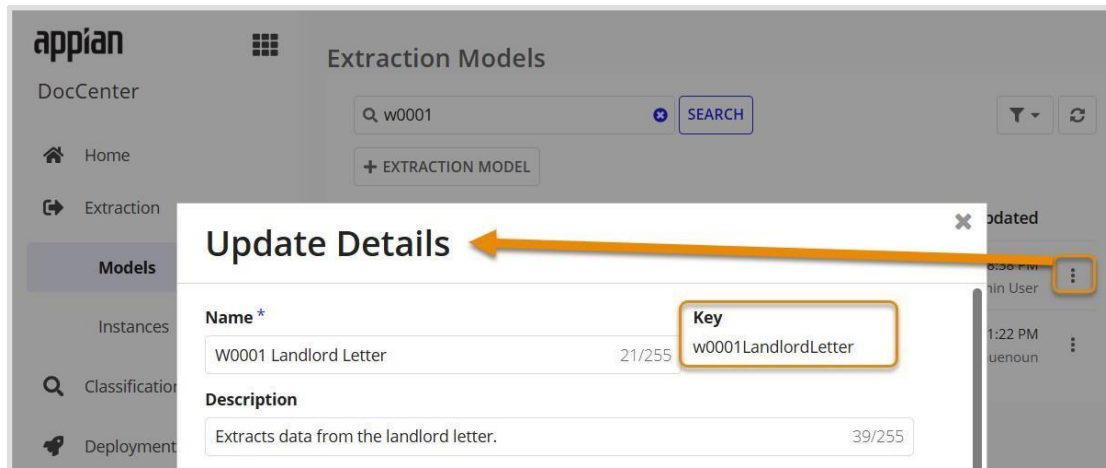
1 = a!forEach(
2   items: pvlupdatedClassifiedDocumentRecords,
3   expression: a!match(
4     value: fvlitem[ LP Home Loan Document.category ],
5     equals: /*Category in your classification model*/"Landlord letter",
6     then: "w0001LandlordLetter",
7     default: null
8   )
9 )

```

2. [保存して閉じる] をクリックします。

抽出モデルのモデルキーを確認する必要がある場合：

- 左側のナビゲーションペインで Extraction を展開し、Models を選択します。W# Landlord Letter 抽出モデルを検索します。
- 右側で、三点メニュー > [詳細を更新] をクリックします。
- 詳細を更新ダイアログで、Key をコピーします。



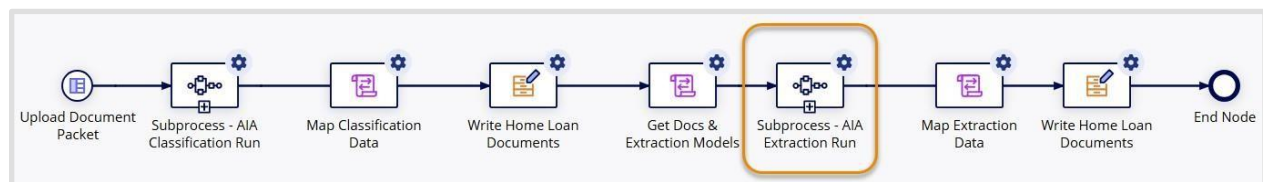
このノードの設定が完了しました。

4. 構成する Get Docs & Extraction Modelsダイアログで [OK] をクリックします。

プロセスモデルに抽出サブプロセスを追加する

次に、抽出サブプロセスを追加します。このサブプロセスは、ドキュメントからデータを抽出してメインプロセスに返します。サブプロセスは、複数のノードインスタンス（MNI）を実行するように設定し、`pv!documentsForExtraction` 内の各ドキュメントがデータ抽出に送られるようにします。

1. 左側のパレットで次を検索します：AIA Extraction Run Model Version
2. AIA Extraction Run Model Version をキャンバスにドラッグ&ドロップし、Get Docs & Extraction Models ノードと Map Extraction Data ノードの間に配置します。



サブプロセスのセットアップを設定します。

1. Subprocess - AIA Extraction Run ノードをダブルクリックして、プロパティを設定します。
2. セットアップタブに移動します。

3. 入力変数の下で、document (ドキュメント) 変数のドロップダウンの横にある  [式のエディタ] をクリックします。

Input Variables  Specify the data to pass to the subprocess.	
 Refresh	
ModelVersion (AIA Extraction Model Version (Record Type)) =	--Choose a process variable or enter an expression-- 
document (Document) =	--Choose a process variable or enter an expression-- 
input (Text) =	--Choose a process variable or enter an expression-- 
isDocumentTestCase (Boolean) =	--Choose a process variable or enter an expression-- 
modelKey (Text) =	--Choose a process variable or enter an expression-- 
modelVersionId (Number (Integer)) =	--Choose a process variable or enter an expression-- 
testRunProcessId (Number (Integer)) =	--Choose a process variable or enter an expression-- 
testSuiteRunId (Number (Integer)) =	--Choose a process variable or enter an expression-- 

4. 左側の データタブで、プロセス変数を展開し、次を展開します：
documentsForExtraction.
5. documentsForExtraction の下で、documentId を選択します。例：

Expression Editor

DATA

FUNCTIONS

Process Variables

cancel

classificationInstance

classifiedDocumentData

documentPacket

documentsForExtraction

id

documentId

extractionInstanceId

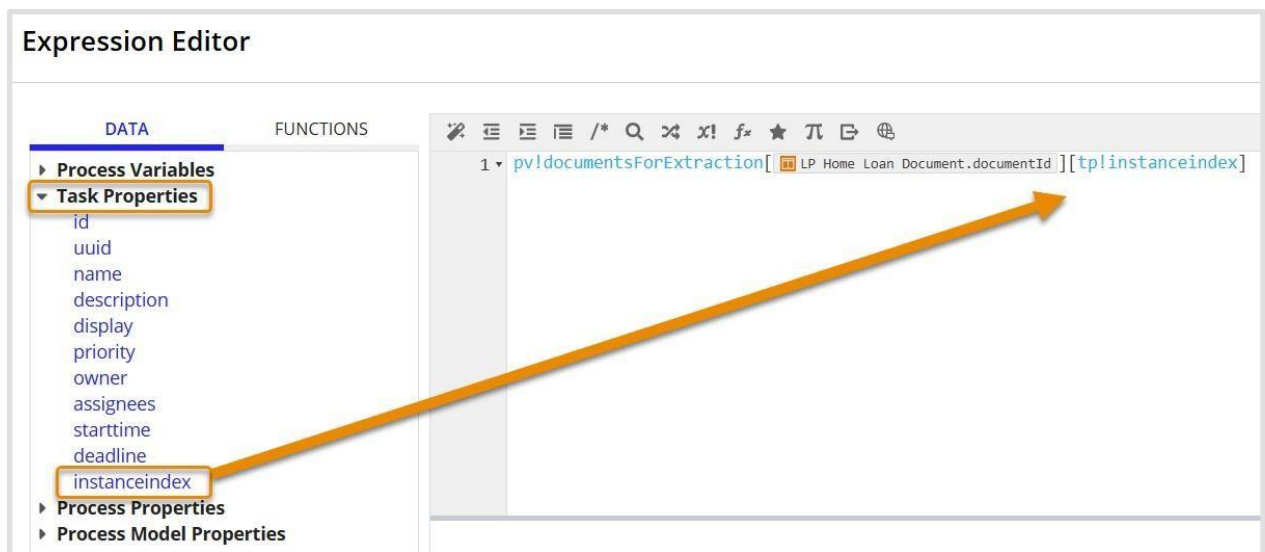
classificationInstanceId

1

`pv!documentsForExtraction[ LP Home Loan Document.documentId ]`

後で、このサブプロセスを複数インスタンスで実行するように設定します。そのため、`pv!documentsForExtraction` にタスクプロパティを追加します。

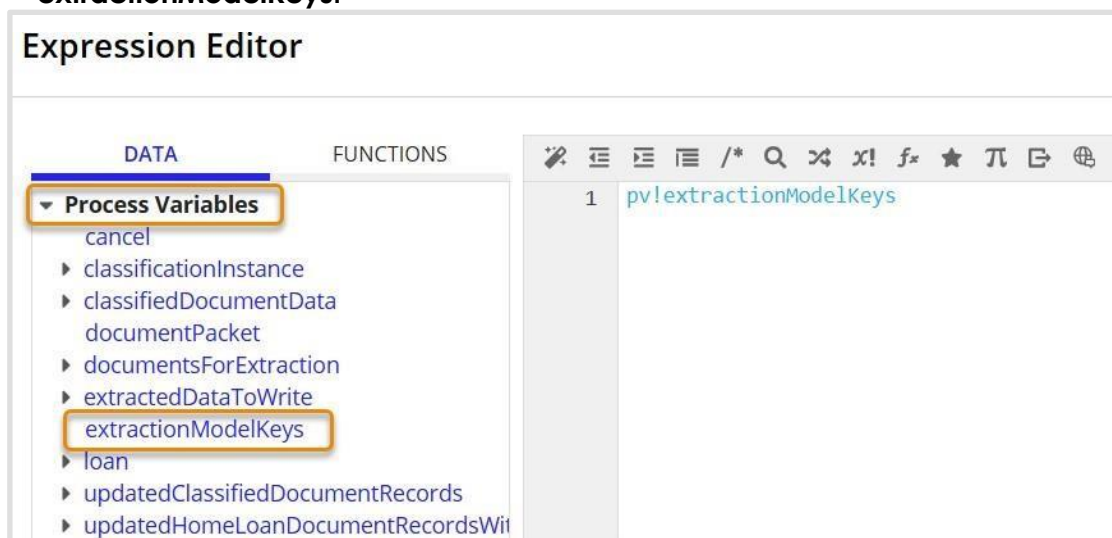
1. 式の末尾に角括弧を追加します。
2. 左側の データタブで、タスクプロパティを展開し、instanceindex を選択して、式の末尾の角括弧内に挿入します。例：



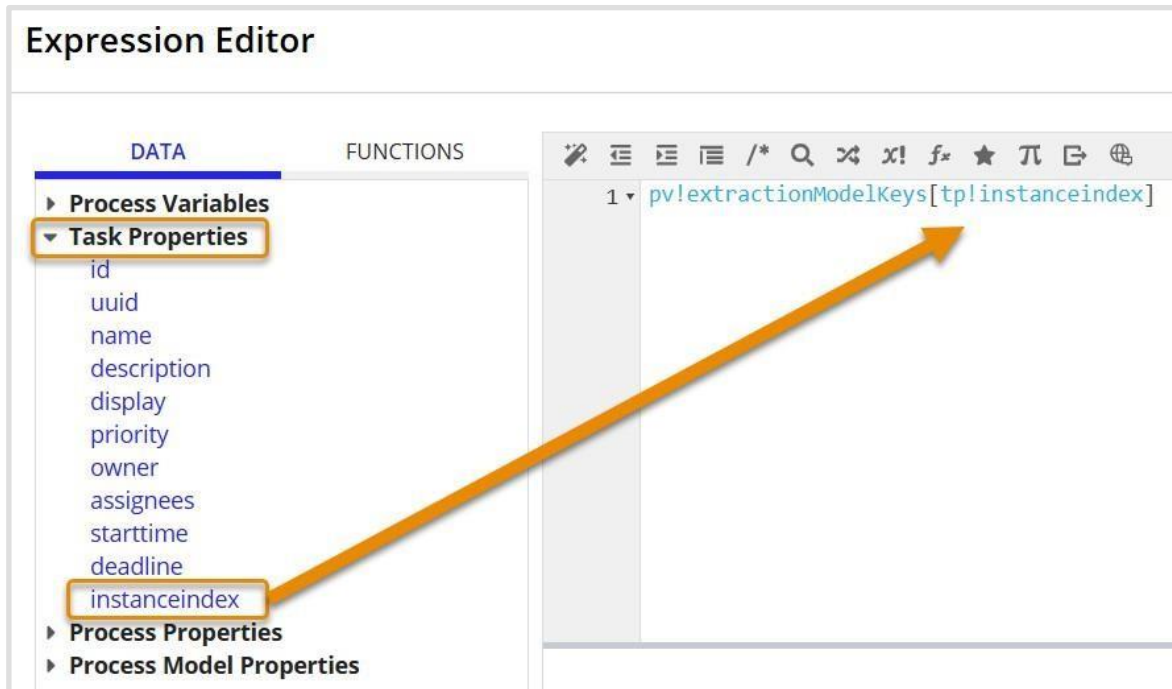
3. 式のエディタダイアログで [保存して閉じる] をクリックします。

抽出モデルキーの変数には、前の Get Docs & Extraction Models ノードで設定されたプロセス変数を渡します。

1. modelKey (Text) 変数のドロップダウンの横にある  [式のエディタ] をクリックします。
2. 左側の データタブで、プロセス変数を展開し、次を選択します：
extractionModelKeys.



3. 式の末尾に角括弧を追加します。左側の データタブで、タスクプロパティを展開し、instanceindex を選択して、式の末尾の角括弧内に挿入します。例：



4. 式のエディタダイアログで [保存して閉じる] をクリックします。

複数のドキュメントに対してデータ抽出を同時に実行するには、このノードの複数のインスタンスを有効にします。

1. 構成するSubprocessダイアログで、その他タブに移動します。
2. 倍数インスタンスの下で、次の各アイテムに1つのインスタンスを実行を選択します。
3. 次の各アイテムに1つのインスタンスを実行のドロップダウンで、次を選択します：
documentsForExtraction.
4. 次のときに進むでは、すべてのインスタンスが完了しましたを選択します。

Configure Subprocess - AIA Extraction Run Model Version

General

Setup

Forms

Scheduling

Assignment

Escalations

Exceptions

Other

Multiple Instances

☒ Automatically run multiple instances of this node

☐ Run instances of this node

☐ Run instances of this node

☒ Run one instance for each item in

☒ Spawn all

☐ Spawn new

☐ Run this many:

☐ Allow more than 1000 instances of this node

Enabling this configuration will automatically set the node to **run all instances at the same time** and **move on when all instances are done**. Also when this node is completed **all previously completed/cancelled instances will be deleted** for performance optimization

☒ Run all instances at the same time

Move on when:

☐ Each time an instance finishes

☐ The first instance is done

☒ All instances are done

☐ When instance(s) finish

☐ Run instances one at a time

5. [OK] をクリックします。

6. File > [保存 & 公開] をクリックします。



注記

DocCenterのオートスケールされたプロセスに対するサポートを活用するには、Subprocessスマートサービスの代わりにスタートプロセススマートサービスを使用して、分類または抽出をトリガーしてください。

抽出データのマッピングと書き込み



プロセスモデル内の次の2つのノードは、既に設定済みです。Map Extraction Data ノードは、抽出されたデータを W#LP Home Loan Documents レコードタイプの対応するフィールドにマッピングします。このノードの出力は `pv!extractedDataToWrite` に格納されます。

Write Home Loan Documents ノードは、`pv!extractedDataToWrite` を W#LP Home Loan Document レコードタイプのレコードに書き込みます。



文書処理パイプラインに検証を追加する

各ドキュメントがコンプライアンス要件を満たしていることをチェックする検証ステップを追加することもできます。たとえば、Prospera Bankは次のことを検証できます。

- クローリングディスクロージャーに借り手の署名が含まれていること
- W-2の日付が過去2年以内であること
- 銀行明細書が少なくとも2か月分の取引履歴をカバーしていること

まず、DocCenterで検証モデルを構築してテストします。自然言語でビジネスルールを定義すると、AIを活用したエージェントが各ドキュメントを評価し、ルールごとに合格/不合格の結果を返します。次に、`AIA_ENTRYPOINT_RunVerificationModel` サブプロセスを使用して、検証モデルをプロセスモデルに組み込みます。

時間の都合上、このワークショップでは検証は設定しません。

演習4：作業のテスト

最後に、作業内容をテストします。

1. 別のタブで、ナビゲーションメニュー  >Loansをクリックします。

2. Upload Document Packetフォームの Select Loan の下で、100 と入力します。
3. Upload Home Loan Document Packet の下で、Use Example Document Packet をクリックします。

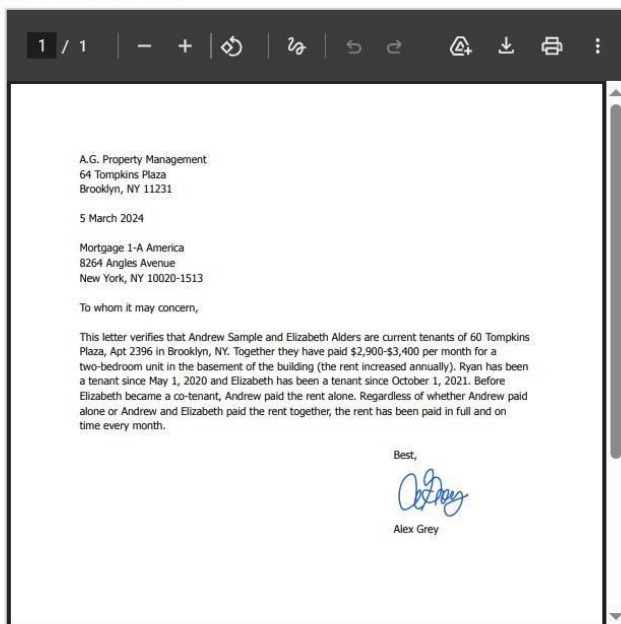
4. [UPLOAD] をクリックします。
5. Loansページに移動します。
 - プロセスが完了すると、ローン100の Classified Documents と **Extracted Documents** が更新されるのを確認できます。
 - 分類と抽出には数分かかる場合があります。最新情報を確認するには、ページを更新してください。
4. Loan ID をクリックして、サマリービューを開きます。
5. Home Loan Documents グリッドで、ドキュメントパケットから分割された各ドキュメントを確認します。

Home Loan Documents	
Category	Data Extracted?
W2	No
Bank statement	No
ID	No
Landlord letter	Yes
Closing disclosure	No

8. 家賃支払証明書（Landlord letter）の抽出が完了したら、Landlord letter をクリックしてサマリービューを開きます。

Landlord letter (loan #100)

Document Preview



Extracted Data

Letter Date	Rent Paid on Time?
Mar 5, 2024	Yes
Tenant One	Tenant Two
Andrew Sample	Elizabeth Alders
Lease Start Date	Lease End Date
May 1, 2020	
Rent Minimum	Rent Maximum
\$2900.00	\$3400.00

Processing Details

Document Category	Document ID
Landlord letter	5646
Classification Instance	Extraction Instance
76	146



おめでとうございます。このワークショップを完了しました。